



小田川 謙一 議員

質問

小・中連携強化の進め方は

町長

施設分離型の小中一貫を見据えて



地域とともにある学校活動として町内全小学校
5・6年生による「たたら体験学習」

質問 今後、仁多・横田の中学校校区において小学校は1校ずつとなりません。教育魅力化を含め、よ

り一層、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の連携強化が望まれる。現状の小中連携形態を維持され

るのか、あるいは小中一貫校への転換を図られるのか。

町長 仁多・横田地域とともに丘の上にある中学校と町なかにある小学校との位置関係など、両地域同等な教育環境による施設分離型の小中一貫教育を見据えて、より一層の小中連携強化を図る。

将来的には文部科学省が推進しているコミュニティ・スクール、地域学校協働本部の設置により地域とともにある学校への転換、子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築、学校を核とした地域づくりを、行政のみならず町民の皆様との協働により推進することが重要であると考える。

提言に対する助成制度の検討を

質問 7月に実施した「横田中学校からの提言」、さらには、10月に行った「町民一日議会」において、

中学生、高校生から多くの提言があった。本町で実施している「住民提案型きらり輝く地域づくり事業」の取組状況を検証の上、18歳以下の子どもたちによる「まちづくり活動」に対する助成制度の検討をすべきと考えるが、町長の見解は。

ある。

「住民提案型きらり輝く地域づくり事業」の内容も見直し、対象者の拡充等も含め、子どもたちのアイデアや、子どもたちが主体的に、まちづくりに関わるような事業内容を検討していく。



町民一日議会で提案のあった、地域リハビリテーションサークル「にたまご」の活動予定拠点・旧高田小学校